

Kagoshima Spa!! Guide

鹿児島市にこんこんと湧き出る温泉は、今日も人々の心と身体を癒してくれる。鹿児島の温泉の今を知っておこう。

札幌国際大学観光学部教授(温泉文化論、観光文化論)

松田忠徳 まつだ ただのり



1949年北海道虻田町洞爺湖温泉生まれ。専門は温泉文化論で、日本で初の温泉学教授として話題になる。現在も日本唯一人の温泉学教授である。これまでに浸かった温泉の数は4,400を超す。旅行作家、翻訳家としても活躍し、著書・翻訳書は130冊を超す。



▲露天風呂が備わる温泉施設も多い

かせば観光客にはとても面白い組み合わせになると思います。温泉のお湯は地上に出た瞬間から劣化するものであり、時間の経過とともに老化(気温・気圧の低下による成分の変化、酸化による劣化)にするもの。逆に公衆浴場は条例によって1日1回は浴槽の湯を入れ替えるので、普通の「温泉」よりもお湯は劣化していません。また、飲泉ができる施設が多いことも、人々が安心できることの証明。全国でも飲泉ができる場所は少なく、しかも銭湯で飲泉が可能なお風呂は、鹿児島しかないと考えていいほどのレベルです。それと、鹿児島では多くの方がリラックスして温泉で寝ている姿を見かけますが、このことはお湯が本物の温泉であり、人々が心身ともにリラックスできているという

ことなのです。清潔で、安全、安心できる泉質というのは大きなアピールポイントですね。

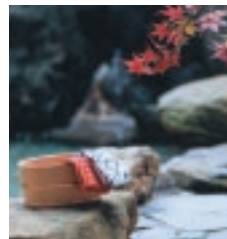
都 会の人々は今、温泉に家庭の時代と同じ役割、心身再生の湯としての役割を求めています。鹿児島には「おもてなし」の心が残っている。おもてなしの心は故郷を失った都会の人々に癒しを与えます。現代はスローライフが求められている時代であり、それは鹿児島の風土にぴったりです。本物は時代を超えて生き残るものでもあり、時代に生き残るものとは柔軟に変化できるものごと。全国的に見ても素晴らしい資源である鹿児島の温泉を、もっと多くの人に知って欲しいものです。(H17・3)



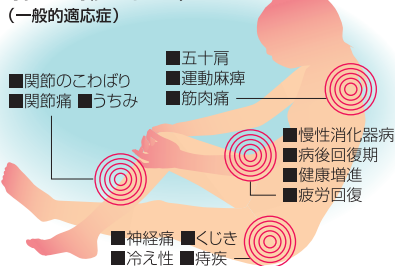
▶気浴浴ジェット浴など設備などが充実の温泉銭湯も多い



▲清潔な浴槽にはたつぷりの湯



次の症状の方には特にお勧めします。(一般的適応症)



温泉の泉質から見た適応症・禁忌症

適応症 禁忌症	適応症			禁忌症									
	浴用	飲用	飲用	飲用	飲用	飲用							
切傷	火傷	慢性皮膚病	虚弱児童	慢性婦人病	慢性消化器病	慢性便秘	糖尿病	痛風	肝臓病	腎臓病	高血圧症	その他一般にむくみがあるもの	
炭酸水素塩泉	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	※注参考
塩化物泉	●	●	●	●	●	●					●	●	●
単純温泉	一般的適応症に準ずる												

※炭酸水素塩泉のうち、ナトリウム塩を含むものは塩化物泉に準ずる。

資料提供/鹿児島市温泉協会(鹿児島市保健所内)